2023（令和5）年度／横浜市

施設内高齢者の健康づくり事業
回想法等に基づいた対話型美術鑑賞
報告書

2024年3月

横浜市・一般社団法人 Arts Alive

2023（令和5）年度／横浜市

施設内高齢者の健康づくり事業
回想法等に基づいた対話型美術鑑賞
報告書

目次

チャプター 01
はじめに.....P3

チャプター 02
アートリップって何？.....P4

チャプター 03
アートリップの
内容って？.....P6

チャプター 04
横浜市でのアートリップの
絵画について.....P7

チャプター 05
ある日のアートリップ.....P8

チャプター 06
事業実施
スケジュール.....P12

チャプター 07
参加施設のアートリップ
実施について.....P13

チャプター 08
インタビュー
参加者と施設職員の
方々の声.....P14

チャプター 09
アンケート
アートリップを体験した声.....P20

チャプター 10
アートリップ資料.....P24

チャプター 11
おわりに
一緒にアートの旅を
楽しみましょう.....P26

チャプター 01

はじめに

横浜の高齢者施設に《アートリップ：アートの旅》を広めていきます

一般社団法人 Arts Alive 代表理事　林　容子

《ARTRIP（アートリップ）：アートの旅》は、2012 年に米国の NY 近代美術館で見た認知症当事者と家族、介護者の為のプログラムに感動して日本でも実施したいとの思いから、米国でのトレーニングを経て、日本の当事者とご家族の為に改良、開発したプログラムです。2012 年より、国立西洋美術館をはじめとする全国の美術館や高齢者施設他で開催し、沢山の当事者と家族の方の笑顔を生み出してきました。アートリップはグループでアートの中を旅するように、作品をよく見て、思ったこと、感じたことを自由に話すプログラムです。旅の添乗員に当たるアートコンダクターが、初めての場所でも安心してアートを楽しめるように、皆様の旅のお供をします。

　最初は緊張されている方も 2 枚目、3 枚目と数を進めるうちに、リラックスしてご自分の好きなようにアートを楽しめるようになります。認知症当事者の方は記憶が失われてしまいますが、アートがトリガーとなって、ずっと忘れたと思っていた、故郷の事、疎開の事、自分の結婚式の事など、様々な思い出がよみがえり、堰を切ったように話し始めたり今感じていることを感情たっぷりに話してくださいます。

　本報告書は「横浜市のできる限り多くの介護施設でアートリップを実施する」という壮大な目的の事業の一環で、横浜市内の高齢者施設 3 か所で実施したアートリップの実録です。事業のきっかけは、横浜市の職員からの一通のメールでした。その高齢施設課の職員の方は以前、国立西洋美術館他の美術館でのアートリップに横浜から参加されていた当事者の高齢女性とご主人のご夫婦のお孫さんでした。お母さまと一緒に 3 回ほど参加され、その時に見たご祖父母さまの様子が心に強く残っていて、他界されたご祖母様の代わりにできるだけたくさんの横浜の高齢者にアートリップを体験してもらいたいとのことでした。この熱い思いを受けて本事業は開始しました。参加された施設では参加者に大きな変化が見られました。また介護士の方からも高く評価していただきました。そして多くの横浜の施設の方々に、「自分の施設でもアートリップをやりたい」と思っていただければ、横浜アートリップ事業は新たな一歩を踏み出すことができます。本書の参加者や施設関係者の言葉や様子から《アートリップ：アートの旅》の楽しさや雰囲気を感じて、横浜の施設にアートリップを広めたいと思っていただければ幸甚です。

チャプター 02

アートリップって何？

アートリップって何？

アート？トリップ＝旅？どっちなの？

アート＝絵画をグループでじっくりと見て、それぞれの感想を自由に話し、いつもとは違うお話を楽しむ鑑賞プログラムを指す造語です。

2006 年に認知症の当事者とご家族の方を対象にしたプログラムを開始した MoMA（ニューヨーク近代美術館）の協力で、日本の高齢者の現状に合わせた独自プログラムです。

認知症の方が日常と異なる体験されて悪影響はないのですか？

全くありません。定期的に体験することで、むしろ様々なことが改善されて、ご家族や周囲の方々との関係が良くなります。

認知症の方だけが対象ですか？

認知症の方から子どもまで、どなたでも対象のプログラムです。

認知症の方とご家族（介護者）が同じように、楽しめるプログラム＝認知症の方に優しいプログラム＝誰にとっても優しいプログラム

アートリップの特徴

1. 認知症になっても《できること》に焦点を当てている。

認知症になっても最後まで残る脳機能である情動機能を絵画で刺激し、脳の複数の部位を活性化する。

2. スキルを持ったアートコンダクター（進行役）による問いかけ。

スキルを習得した認定アートコンダクターによる問いかけが認知症当事者の集中力を高め、彼らが感じたことを言葉として引き出す。

3. 好奇心を刺激し、楽しみを提供する。

絵画の世界は多様であり、非日常なので、旅をしているような新しい体験となり通常と異なる対話が生まれ、当事者の好奇心を刺激し、楽しみを提供する。

4. アートの前では、すべての人は平等です。

絵画の専門知識は必要ありません。絵画の見方は多様であり、どんな見方もそのまま受け入れられます。正解がなく、間違いがないので否定されない。その人その人のアートの見方を受け入れるので、どんな認知症症状の方も参加可能。

アートリップの効果検証について

◎ 2013 年

独立行政法人 長寿医療研究センター／脳賦活部自立支援室（島田裕彦）

MCI 且つうつ症状のある（スケール 5 以上）在宅高齢者のうつの軽減と精神状態の向上や認知力の向上兆候など、認知症予防効果の兆候が認められたことを検証。

◎ 2019 年

国際治験「A-Health 」に参画／査読学術誌 “Frontiers in Medicine”（2023.7）

Dr. Bouchet（マギル大学、カナダ）のプロトコルによる美術館における参加型アートプログラム（創作とアートリップ）が在宅高齢者の心身の健康、QOL、ウェルビーイングに与える効果を検証。

◎ 2021 年

仙台富沢病院／理事長 藤井昌彦

長期認知症患者対象に仮設ギャラリー内の複製画を使ってのアートリップを 4 回実施。同病院考案の情動指数により BPSD（認知症の行動・心理病状）の軽減効果を測定。

チャプター 03

アートリップの内容って？

どんな絵画？なぜこの絵画？

風景画、静物画、人物画、抽象画など、さまざま時代や国や地域で描かれた絵画を鑑賞するので、絵画の知識は必要ありません。
アートコンダクターが選んだ技法もスタイルも違う絵画をグループで鑑賞し、最後に作品を繋ぐテーマや作品についてお話しします。
テーマは、身近なもの、私たちの五感を刺激する全てものです。
例えば、「明るさ、暖かさ、寒さ、良い香り、柔らかさ、鳥のさえずり . . .」など。また、季節感も大切にします。

思い出（回想）と想像を呼び起こすプログラム

絵画に描かれたものや色彩や質感から、様々な思い出が浮かびます。
「楽しかった、嬉しかった、褒められた、怒られた、美味しい . . .」

テーマのある絵画での選定

プログラムを通して鑑賞した絵画のこと（作者のこと、制作された時代や国のこと、技法のことなと）を参加された方々が一緒に共有することで、グループの場の一体感が生まれます。

どれぐらいの時間？

時間は約 40 分。進行役のアートコンダクターと一緒に、グループで絵画を鑑賞します。
アート好きな方も、関心のない方でも、絵画から受けた印象や感想は実にさまざまです。総てを受けいれてくれるのがアートです。

・ご挨拶とプログラムの説明／ 5 分
・最初の作品を鑑賞と感想／ 15 分
・次の作品を鑑賞と感想／ 15 分
・最後に参加の方々と感想を共有／ 5 分

どのような設備が必要ですか？

・静かな場所（参加者の方々の話を聞きやすくするため）
・プロジェクターとスクリーン（絵画の画像を投影するため）

チャプター 04

横浜市でのアートリップの絵画について

作品写真 1

作品写真 2

第 1 回アートリップで使用した作品情報

◎作品写真 1「版画集『一木集 III』静物」
川西　英／1947（昭和22）年／多色木版／6.7 x 9.8cm
横浜美術館所蔵

・アートコンダクターの問いかけ

「何が見えますか」
「知っているものはありますか」
「好きなものはありますか」
「どんな色が使われていますか」
「ここにあるもので、どれを使って料理を作りたいですか／作ってもらいたいですか」
「その料理を誰と食べたいですか」

◎作品写真 2「猿」
橋本関雪／ 1940（昭和15年）年／絹本着色／ 51.2 x 57.1cm
足立美術館所蔵

・アートコンダクターの問いかけ

「何が見えますか」
「この動物（猿）は何をしていますか」
「猿を触るとどんな感じだと思いますか」
「季節はいつ頃でしょうか」
「この柿はどんな味だと思いますか」
「この後、どうなると思いますか」
「家や近所に柿の木がある／あったか」
「猿は見たことがあるか／どこで／いつ／その時どうした」

この 2 点の絵画のテーマ
「おいしそう」

チャプター 05

ある日の アートリップ 01

第１回目アートリップでの参加者の思い思いの感想です。

まずアートコンダクター（進行役）から、アートリップの流れの説明の後、最初の作品を投影しました。参加者の方々に先入観なく、じっくりと絵画を見ていただきました。

アートコンダクター（AC）の問いかけに広がる対話。他の人の発言に耳を傾け、うなづく方や冗談に笑いが起こりました。

AC「何が見えますか」

・ひと目見てとても楽しい、元気が出ます。
・ナスが一番目立つ
・色がきれいで、おいしそうに見える。
・かぼちゃかな？グリンピースのさやかな？
・ナスの形が印象的、へたかな。
・どこかに人がいる、ボトルに取手があるから。
・ガラスを感じた
・ナスが笑ってる

AC「知っているものはありますか」

・かぼちゃ、ナス、トマト。りんごじゃなくて？
・左のは瓶
・日本人が作ったのかな
・取手があるから人がいる
・注ぐものがないね
・瓶にはウィスキーかな、飲みたくなっちゃった（笑）。
・ワイン
・中身はお酢か醤油
・野菜に酢を漬けると美しい色が出る。私たちも酢をつけたらキレイに見えたら良いのにね（笑）。
・一升瓶、日本酒が入ってると思う。
・とっくりの中身は焼酎

AC「好きなものはありますか」

・トマトはそのままで食べるのが好き
・おなすが食べたいな

AC「ここにあるもので、どれを使って料理を作りたいですか」

・天ぷらが作れそう！
・なすとかぼちゃの天ぷら
・トマトは何も掛けないで食べる
・なすを信州味噌で煮るの、主人と食べたいな。
・セザンヌを感じる
・描いた人が何を考えていたのか、構図を考えた。
・版画の小ささに驚いている
・美術館に行くのが好き
・水彩画が描きたくなっちゃった

◎「版画集『一木集 III』静物」
川西　英／ 1947（昭和 22）年／多色木版／ 6.7 x 9.8cm／横浜美術館

チャプター 05

ある日のアートリップ02

2 枚目の絵なので緊張がほぐれてきたのか、普段とは違う様子が。自分から他の方に話しかけたり、なかなか人前では発言されない方がしっかり話をされていたり。他の方の話を聞いて興味深げに近づいて絵を見る方など、打ち解けた温かな雰囲気に。

AC「何が見えますか」「この動物（猿）は何をしていますか」

・本物みたい
・あたたかい、ほのぼの。
・猿が枝をひっぱている、柿を取ろうとしている。
・柿の色がきれいだから美味しそうに見える
・妻は動物はあまり好きではなかった。
・毛が一本一本丁寧に描いてある。首のあたりが柔らかそうで触ってみたい。
・ポーズがいいよね
・年のいった猿よね
・子どもの頃、猿が嫌いだった。
・可愛いわね、毛がふさふさしていてあたたい。
・木がガサガサしている、施設にある柿の木とは違うかも。
・筆が勇ましく、一気に描いた勢いがある。描いた人も結構威勢が良い人だと思う。
・猿は頭が良い、口を一文字にしている。
・柿は取れないと思う、手が届かない。

AC「柿の木が近くに生えていますか」

・柿の木を登るのは危ないよ
・自宅に柿の木があった
・柿の木は滑るから危ない
・家に柿の木があったけど危ないから登らなかった
・柿食べたい

AC「この後、どうなると思いますか」

・取れないかも。猿も木から落ちるってこと（笑）。
・子どもの猿かも
・柿は最後の一個、取ったらすぐ食べてしまうと思う。
・ここは温泉だね。落ちてもあったかいよ、きっと。
・ふわっとした感じ
・自分も描けたら描いてみたい
・幻想的な絵

・特に東山魁夷が好き
・自然のままに描いている
・猿の絵の方が好きだな

最後に

アートコンダクターが、参加者の皆さんの発言をまとめることて、さまざまな感想を思い出し、作品についての情報（タイトル･作者･制作年・素材／技法・大きさ・所蔵先）と今回のテーマ「おいしそう」をお伝えすると、作品への関心が高まり、その場の一体感が生まれました。

◎「猿」
橋本関雪／ 1940（昭和 15 年）年／絹本着色／ 51.2 x 57.1cm／足立美術館

チャプター 06

事業実施スケジュール

◎事業実施期間

2023年9月1日～ 2024年2月

◎参加施設の公募

横浜市内の高齢者施設へ参加希望施設を公募しました。

◎募集対象施設／特別養護老人ホーム、養護老人ホーム 3施設

◎応募条件

・開催場所（会議室など）
・設備（画像を投影するプロジェクターなど）
・プログラム実施中の見守り
・プログラム実施前後のアンケートなど、効果測定への協力
・報告書への写真撮影の同意（スタッフ、利用者）の事前取得
＊個人が特定されないよう撮影します
・参加者の選定

◎申込方法／インターネット

応募が多数の場合は、横浜市が選考
申込期限：2023年9月22日（金）23：00

チャプター 07

参加施設のアートリップ実施について

◎実施施設

社会福祉法人 神奈川県匡済会
養護老人ホーム 白寿荘

横浜市泉区和泉町 6181

https://kyosaikai.jp/service/hakujuso/

定員：70 名（全室個室）

担当アートコンダクター：
板野泉・板野泉

事業スケジュール
10/24（火）10:30 現地打合せ

第 1 回アートリップ
11 月 13 日（月）
前半：9:30 ～ 10:10
後半：10:40 ～ 11:20
視察／横浜市より 3 名

第 2 回アートリップ
11 月 27 日（月）
前半：9:30 ～ 10:10
後半：10:40 ～ 11:20

第 3 回アートリップ
12 月 11 日（月）
前半：9:30 ～ 10:10
後半：10:40 ～ 11:20
視察／横浜市より 2 名
和泉保育園より 1 名

インタビュー
2 月 20 日（火）
伊藤祐樹・永田翔
参加者の 3 名の方々
聞き手／林容子

社会福祉法人 和みの会
特別養護老人ホーム 和みの園

横浜市 戸塚区東俣野町 1705

https://nagominosono.jp/

定員：80 名（2 人部屋 33 室、個室 14 室）

担当アートコンダクター：
宮澤美保子・小野幸子

事業スケジュール
10/20（金）10:30 現地打合せ

第 1 回アートリップ
11 月 20 日（月）
前半：13:30 ～ 14:10
後半：14:40 ～ 15:20
視察／横浜市より 1 名

第 2 回アートリップ
12 月 4 日（月）
前半：13:30 ～ 14:10
後半：14:40 ～ 15:20
視察／ 横浜市より 2 名
横浜美術館より 2 名

第 3 回アートリップ
12 月 18 日（月）
前半：13:30 ～ 14:10
後半：14:40 ～ 15:20
視察／横浜市より 2 名

インタビュー
2 月 22 日（木）
森谷健一
聞き手／林容子

社会福祉法人 泰明会
特別養護老人ホーム てるてる園

横浜市青葉区奈良町 2578

http://www.taimeikai.com/

定員：90 名（9 ユニット）

担当アートコンダクター：
小野佳織・志村良子

事業スケジュール
10/17（火）10:30 現地打合せ

第 1 回アートリップ
11 月 28 日（火）
前半：13:30 ～ 14:10
後半：14:40 ～ 15:20
視察／横浜市より 1 名

第 2 回アートリップ
12 月 7 日（木）
前半：13:30 ～ 14:10
後半：14:40 ～ 15:20
視察／横浜市より 2 名

第 3 回アートリップ
1 月 18 日（木）
前半：13:30 ～ 14:10
後半：14:40 ～ 15:20
視察／横浜市より 3 名

インタビュー
2 月 19 日（月）
岡本和也
聞き手／林容子

敬称略

チャプター 08

インタビュー

参加者と施設職員の方々の声

アートリップに参加された 3 名の方に感想をお聞きしました。

◎白寿荘 参加者の N.N. さん

今まで絵が嫌いではないけどそれほど関心はなかった、とお話しされた NN さん。

「だから、絵を見て『おいしそう』とかすぐにいろんな感想を言える人はすごいと思ったし、自分にはそう言う感性がないんだな、困ったなと感じました」とのこと。

それでも、他の参加者の考え方を聞いて、それを自分の中に取り込み、「絵ってちょっと面白い」と思ったそうです。「型にはまらない色んな見方があるのはいいな。少ない人数の中でゆっくりと時間が過ごせたことも良かった。他の人と一体になるような気持ちも出てきた」とお話しされました。プログラムの中でそれぞれのいい部分が見えてきたことで、施設全体が和やかな雰囲気になった気がする、という感想もいただきました。これまであまり話しをなかった人ともプログラム後は自然に見た絵について話しをしたり、笑ったりするようになったそうです。

「自分は表面的な見方しかできないので、人によって目の付け所が違うことや、色々な見方を知ることが刺激になった。自分と違う視点を吸収できて良かった。楽しかったです。」と、笑顔でインタビューに応じてくださいました。

◎白寿荘 参加者の S.N. さん

「とっても素晴らしかったですよ。」

アートリップの感想をそう話された S.N. さんは、ご自身のことを「見るのが好きなタイプなんですよ。」といわれる今月で 88 歳になるお元気な方。若い時のこと、美術館に行かれた時のこと、ご自身が関わっていた活動のこと、娘さんのことなど、鮮明にお話しになられました。アートリップが色々なことを思い出す契機になり、ご自身でも忘れていたことを思い出せたことに驚かれていました。「美術館に連れて行ってもらって、本物の絵画をみたい。」と言われていた笑顔が印象的でした。

◉社会福祉法人神奈川県匡済会 養護老人ホーム白寿荘

施設長　伊藤祐樹さん／施設職員　永田翔さん

白寿荘の伊藤さんと永田さんに、アートリップに参加された方々で印象に残っていることをお聞きしました。

◎施設長　伊藤祐樹さん

参加された方の反響の大きさ

プログラムから数日たった後も施設の中で話題にのぼり、「今度はいつあるの？」と聞かれることも度々ありました。そういうことは今までなかったです。そして、参加された方は美術館に行きたい、連れて行って欲しいと言っているとのことです。

話しやすい雰囲気づくり／アートコンダクターについて

アートリップは傍目には特別な演出なく淡々と進んでいきますが、色々工夫されたプログラムだと感じました。参加されている方の話を掘り下げて引き出すというアートコンダクターの手法は、トレーニングを受けないとできないだろうと感じ、ぜひそのノウハウを身に着けたいと思いました。

◎施設職員　永田翔さん

ご自身がアートリップを楽しみ、好きになったという永田さん。この体験を他の職員にも伝えたいと熱心にお話しいただきました。学校での美術は苦手だったと仰る永田さんですが、自由に感想を言い合うアートリップは楽しめたとのことで、その魅力についてたくさん語ってくださいました。

みなさんの変化／考えをことばにする

普段、職員と話していても会話の中身を深く掘り下げるということが難しいような、反応がそこまで良好じゃないない方でも、アートリップの最中だと、ご自身の言葉でお話をされているなっていうところが印象的でした。

日常の会話の中では職員の手助けを多少必要としている方が多いのですが、アートリップでは自分の考えを言葉にすることができていて、その変化は養護老人ホームであっても顕著でした。昔の話がたくさん出てきていたことも印象的でした。

心から楽しむ様子

皆さんと同じ場に私もいて、参加された方が心から楽しんでいるなというのが伝わってきました。和気あいあいとした雰囲気で、心地よい時間でした。

どのような感想・意見も受け止める

それぞれの感想や発言を否定するということがなく、自然と「そういう考えもあるんだな」と受容しあうところにたどり着けていたので、これはすごいことだと本当に驚きました。

利用者さんの大きな反響

参加された方から、「またアートリップに参加したい」「もう来ないのか」「次の予定を立ててほしい」といった次を催促されるような前向きな意見が多く聞かれました。こんなことは初めてでした。

利用者さんとの会話の広がり／支援の質を上げることに

アートコンダクターの問いかけや話を促す手法は、入所者の方の発言を少し掘り下げたいという時に活用できそうです。アートリップには自身と利用者さんとのコミュニケーションを深めるヒントがありました。コミュニケーションが苦手な職員にもアートリップの手法を伝えて、職員と入所者さんの会話が弾むようになれば、支援の質もあがると思います。今回は全て私と施設長が参加させてもらったので、機会があれば、違う職員にも体験してもらいたいです。

控えめな男性の利用者さんも

男性の利用者さんは、ちょっと人見知りな部分があって、参加中の発言はそれほど多くなかったので、アートリップには合わなかったのかな、と思っていたのですが、参加後すぐに「次はいつやるんだ？」と尋ねられました。発言の多い・少ないに関係なく、その場を楽しまれていたようです。

記憶に残ったアートリップ

絵を「ただ見ている」のではなく、「一緒に話をしながら観る」というのが、今までにないレクリエーションで、参加された方は普段と違う刺激を受けていると感じました。

◉社会福祉法人和みの会
特別養護老人ホーム和みの園
施設職員　森谷健一さん

参加者の半数から８割が認知症の方だった和みの園でのアートリップ実施。認知症の方々の普段とは異なる様子に接した森谷さんが、その変化をお話くださいました。

参加者どうしの交流の促進

顔見知りではあるけどこれまで話す機会のなかった同じフロアにお住まいの方々が、アートリップに一緒に参加されたことで対話が増え、さらに他の方の感想やコメントについてお話しになられたりと、参加者同士がお互いに関心を持つようになり、交流が促進されたことに驚きました。
参加後に、「これで終わりなの？」と発言された方がいました。『もうちょっとやりたかった』ということですよね。場の雰囲気にも慣れて、面白くなってきたところだったのかもしれませんね。

認知症の方のお話の変化

アートリップには認知症の方もそうでない方も参加しましたが、皆さんプログラムが終わった後も他の参加者の絵に対するコメントを良く覚えていて驚きました。認知症の方は、普段は問いかけられてもなかなか言葉がでなかったり、同じコメントを繰り返したりするのですが、アートリップでは、アートコンダクターに絵についての問いかけをされると的確に応えることができていました。その様子を見た他の参加者が、「〇〇さんは、いつもと違って自分の思ったことをお話しされていたわね。驚いた。」と仰っていました。認知症の症状のある方に対しての偏見が少し覆されたと感じました。
これまで問いかけても反応がなかった認知症の重い方も３回目に参加されたときは、ご自身の意見をはっきり述べていました。３回目で終わってしまったのでプログラムを理解したところで終わってしまった感じで、あのまま続けていたらもっと変化が見られ、参加者同士の会話もできるようになるのではないかと感じました。

少しの変化／記憶に残っている

認知症の方で、普段は最近あったことを覚えているのが難しい人も、「昨日、絵を徹底的に見て話をした」とお話しされた方がいました。普段と違うことをやったというのは、記憶に残りやすいのかもしれませんね。

次のアートリップを楽しみに

2 回目、3 回目のアートリップが終わった後、「次はいつだっけ？」と尋ねられました。

◉社会福祉法人泰明会
特別養護老人ホームてるてる園
施設職員　岡本和也さん

岡本さんは、より多くの方にアートリップを楽しんでもらえるように、と参加の声かけから当日の並び順に至るまでご尽力頂きました。参加された方々の当日の様子も、間近でご覧になられていました。

継続について

参加された方の楽しそうな様子から、このまま毎月来てもらいたいと思うぐらい、申し込んでよかったと思いました。また、アートリップを施設で継続して実施するため、今回のように映像を投影する以外の方法にも関心を持ちました。

興味のない人でも楽しめる

「あまり美術鑑賞が好きではない」と仰っていた方が、体験後には「すごく楽しかった」とお話しされている様子を見て、元々アートに興味がない方でも楽しめる内容だと感じました。まだ参加されていない方にも、機会があればおすすめしたいです。

外出で美術館・博物館へ

感染症の流行がおさまれば、美術館・博物館が外出の選択肢に挙がると思います。実現が楽しみです。

楽しむ場から「楽しみを待つ／生きがい」へ

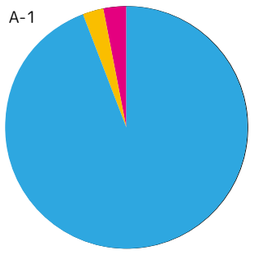
回を重ねる毎に発話が多くなり、最後にはスタッフから問われなくても、皆さん自分から積極的にお話しされるようになった様子に驚きました。
やっぱり楽しかったということだと思います。その場を去り難いみたいな雰囲気がありました。アートリップを継続できれば、施設での『楽しみ』が増えることになりますよね。

チャプター 09

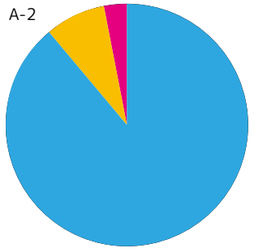
アンケート

アートリップを体験した声

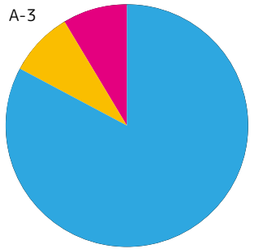
A-1



A-2



A-3



A：参加者の方々へのアンケート

アートリップの効果を実施中の参加者の方々の様子を記録することで検証するため、情動指数（仙台富沢病院における非薬物治療でのBPSD 緩和効果の検証／佐々木英忠･藤井昌彦）を採用し調査。アートリップ終了直後に、今後の参加についてお聞きしました。

A-1：第 1 回アートリップ参加後にお聞きしました。また参加したいですか。

- 94.4%：はい、参加したい
- 2.8%：どちらとも言えない
- 2.8%：いいえ

A-2：第 2 回アートリップ参加後にお聞きしました。

- 88.9%：はい、参加したい
- 8.3%：どちらとも言えない
- 2.8%：いいえ

A-3：第 3 回アートリップ参加後にお聞きしました。

- 82.9%：はい、参加したい
- 8.5%：どちらとも言えない
- 8.6%：いいえ

B：施設スタッフの方々へのアンケート

アートリップ実施後に､実施の準備､実施中での参加者の方々のフォローと調査。参加者の方々が居心地良く過ごせるようにご尽力いただいた施設のスタッフの方々に、プログラム内容や参加者の方々の様子についての感想と今後の継続開催についてお聞きしました。

B-1：プログラムの実施時間（40 分）の長さについて教えください。

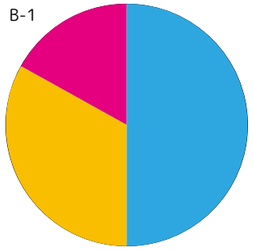
- 50%：ちょうど良い

・一回の開催があっという間に終わってしまう感じがありました。職員目線からするともっと長い方が良いと思いますが、ご利用者の集中力を考えると 40 分が適切なのかなとも思いました。

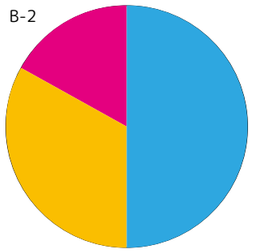
・高齢者の緊張の継続が大体 45 分くらいと考えていた（施設での映画鑑賞会でも、45 分くらいの番組を流しています）ので、40 分は丁度良いと思います。

・入居者様の体力・集中力を考えてちょうど良かったと思います。

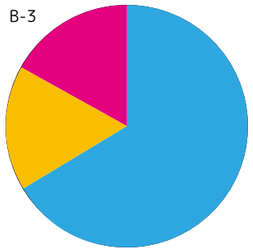
B-1



B-2



B-3



・作品に触れることで生まれる感情や思索を、他の参加者と共有することで新しい視点が広が広まり、1 人 1 人に意見を求めるため、時間は妥当かと思われます。

- 33. 3%：やや長く感じた（もう少し短くても良い）

・絵画に興味がない人は、途中で離席したり、居眠りをしたりしていたため。

・絵画への集中力が切れてしまっていた参加者が数名いたため。

- 16.7%：短く感じた

B-2：貴施設で行われいる他のプログラムと比較して、どのように評価されますか。

- 50%：大変すぐれている
- 33.3%：すぐれている
- 16.7%：同じ程度

その理由はどのようなものですか。

・興味がある人にとっては有意義な時間だったが、興味がない人にとっては退屈な時間となった為。

・今まで実施したことのない内容で、独自性が特に優れていると思いました。何より『アートに詳しくなくても興味さえあれば参加が出来る』というのは、高齢者施設で行なわれる催しにとても適しているものだと感じました。

・ビデオを流す、カラオケとか「動」のプログラムを施設では行うことが多く、今回の鑑賞会などは、司会者の話すテクニックが要求される為、職員の誰もができるものではなく、新鮮であった。今回行って頂いて、手順などは理解できたので施設でも同じ様なことが出来るか検討したいと思います。

・入居者様の普段みれない様子が垣間見え、プログラム後の雰囲気も大変良く喜ばれていました。手法もとても参考になるものでした。

・専門の講師を招くことはないため、単純な比較は難しいが、参加型の芸術体験をさせてくれたことが 1 番素晴らしいと思った。

・マンツーマンに近い形での実施により、参加者の反応が確認しやすいため。

B-3：今後、プログラムを継続実施して欲しいと思われましたか。

- 66.7%：ぜひ継続して欲しい
- 16.7%：継続して欲しい
- 16.7%：あまり継続して欲しくない

その理由はどのようなものですか。

・実施前後で変化を感じられず、職員の負担も大きいため。

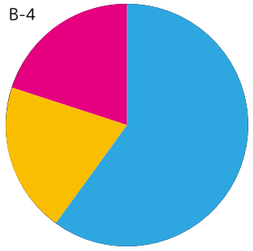
・参加したご利用者より『もうやらないの？』『次はいつ？』との発言がほぼ全員より聞かれました。参加した私自身、是非とも継続をお願いしたいと心から思っています。

・利用者が大変楽しんでいたし、１回目よりも２回目、２回目よりも３回目の開催を待っていた方も多く有りました。また、外部からのプログラムは、施設内で行うのと違う「わくわく感」があり、利用者・職員が楽しみにしていました。

・今回対象でなかった入居者様にも是非体験してもらいたいと思いました。

・参加した方の反響がものすごく、数日経った今でも『またやりたい！』と余韻が残っているため。

・継続して実施することにより、参加者の反応も更に良くなると考えられるため。



B-4：B-3 の質問で「ぜひ継続して欲しい」「継続して欲しい」とご回答いただいた方に、実施の適当な頻度をお聞かせください。

■ 60%：隔週（月２回程度）

■ 20%：月に１回程度

■ 20%：イベントなどで不定期に

B-5：今回のプログラムを有償化する場合、一回ごとに参加者お一人あたりの参加費がいくらが妥当だと思いますか。具体的な金額と理由をお聞かせください。

・分かりません。

・100 円／金銭的負担が大きいと参加出来ない方もいるため。

・可能ならば無料が好ましい／参加費がかかる場合、参加者が集まるか不明（お金がかかるならば、有意義であっても参加しないという人が出ると思われる）。

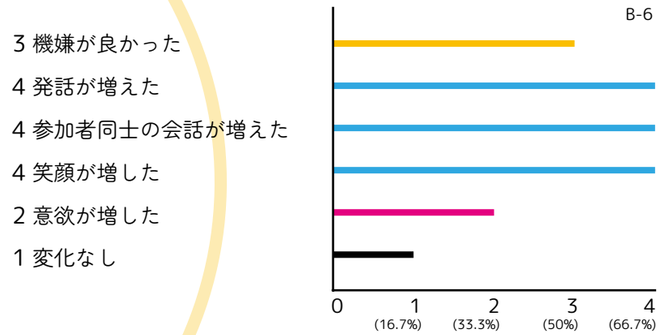
・2000 円～ 3000 円／金額が高い事で、参加が難しくなる可能性が考えられるため。上記の金額より高くなる場合は、月に１回が限度かと思われます。

・ご家族負担になるので分かりませんが、美術館の入館料よりは安い方がいいと思います／美術館にある全ての作品を見れる訳ではないので。

・無料又は 100 円～ 300 円くらい／特養でのプログラムで、費用が掛かるレクに関しては低額しか取れません。それか、外出の実費

レベルです。あえて、費用が出る場合は、何か本人や家族にフィードバックできるものがあるといいかと思います。

B-6：参加された方々のご様子について、参加前（日常）と比べて変化があればお聞かせください。



その他の変化について

・美術館巡りを次年度の行事に入れて欲しいと申し入れがあった。

・特になし。

・次はいつ来るのかと質問してくる参加者が複数名いた。楽しみにしている様子であった。

・参加されたご利用者が口々に「楽しかった」「参加させてくれてありがとう」と話されていた事。

・３回目が終了したあとの残念そうな様子が印象に残っています。コロナ禍でイベントを制限していた期間が長かった為、より一層、楽しさと終了する残念さが強かったのかと感じました。

・参加されていない入居者様に体験談を楽しそうにお話されていました。

・回を重ねる毎に開催を待っていらっしゃる方が多く、「わくわく感」や「楽しみを待つ」というものが出てきたと思いました。

チャプター 10

アートリップ資料

横浜市内の 3 施設で開催した第 2 回アートリップ、第 3 回アートリップで使用した作品情報

第 2 回アートリップテーマ：「人気の場所」

◎「冨嶽三十六景 東海道程ヶ谷」

葛飾北斎／1830-32（天保元ー天保 3）年 頃／木版多色刷

大英博物館（イギリス）

◎「踊り 上海ニューカルトン所見」

山村耕花／1924（大正 13）年／木版／40.0 x 27.2cm

横浜美術館

第 3 回アートリップテーマ：「じんわり」

◎「霜が降りる、火を起こす農家の少女」

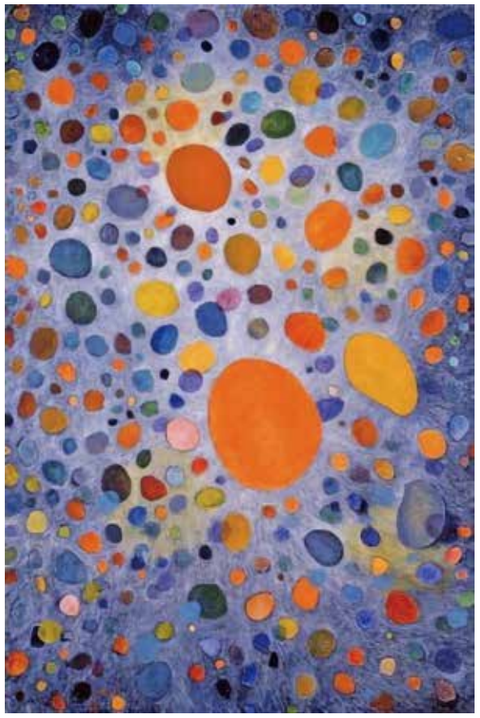
カミーユ・ピサロ／1888（明治 21）年／油彩、カンヴァス

92.8 x 92.5cm ／オルセー美術館（フランス）

◎「青の中の黄色い丸」

瑛九／1957-58（昭和 32-33）年／油彩、カンヴァス

116.5 x 80.0cm ／埼玉県立近代美術館



チャプター 11

おわりに

一緒に
アートの旅を
楽しみましょう

アートリップの目的は、参加者の方々の笑顔に出会うことです。アートリップでは、スクリーンにプロジェクションしたアートの絵を参加者全員で 15 分くらいの時間をかけてじっくり見ることから旅が始まります。絵を見るうちに彼らは、絵の中に入っているかのようなコメントをしてくれます。目の前の絵は動きません。だから忘れる瞬間がありません。

　アルツハイマー病を患う方の脳に最後まで残る機能は情動です。つまり、嬉しい、悲しい、楽しい、嫌い、好き、綺麗などの感情をつかさどる部位です。当事者の方は何を見たのか、何を食べたのかを忘れてしまっても、「楽しかった」「嬉しい」「おいしい」などの感情は最後まで持ち続け、その感情は持続します。“なぜかわからないけれど楽しい気持ち” が残るのです。ですからアートリップでは、新しい知識や体験を得ることも大切ですが、まず楽しんでいただきたい！と思って、私達は《アートの旅》の添乗員をしています。

　高齢者施設で日常的にアートリップをするには、介護職の方に添乗員になっていただくことが必要です。参加者の方が無理なく《アートの旅》ができるように必要なのがアートコンダクターです。現在活動中の認定アートコンダクターには、多くの介護職の方がいます。彼らは普段は見せられない入居者さんたちの笑顔やコメントを楽しみに、施設内でアートリップを実施しています。アートの知識はなくても大丈夫です。「一緒にアートの旅の添乗員となり、《アートの旅》でかけませんか？」どなたでも取り組みやすいプログラムを作って、皆様の参加をお待ちしております。

一般社団法人 Arts Alive
代表理事　林 容子

◎本誌・掲載作品一覧

◎作品写真 1
「版画集『一木集 III』静物」
川西　英／ 1947（昭和 22）年
多色木版／ 6.7 x 9.8cm ／横浜美術館（日本）
→ P7 の上の作品 1
→ P9 の作品写真
（第 1 回アートリップで使用）

◎作品写真 2
「猿」
橋本関雪／ 1940（昭和 15）年
絹本着色／ 51.2 x 57.1cm
足立美術館所蔵
→ P7 の下の作品写真
→ P11 の作品写真
（第 1 回アートリップで使用）

◎作品写真 3
「富嶽三十六景 東海道程ヶ谷」
葛飾北斎／ 1830-32（天保元－天保 3）年頃
木版多色刷／大英博物館（イギリス）
→表紙の作品写真
→ P24 の 1 番目の作品写真
（第 2 回アートリップで使用）

◎作品写真 4
「踊り 上海ニューカルトン所見」
山村耕花／ 1924（大正 13）年／木版
40.0 x 27.2cm ／横浜美術館（日本）
→ P22 の 2 番目の作品写真
（第 2 回アートリップで使用）

◎作品写真 5
「霜が降りる、火を起こす農家の少女」
カミーユ・ピサ／ 1888（明治 21）年
油彩、カンヴァス／ 92.8 x 92.5cm
オルセー美術館（フランス）
→ P25 の 1 番目の作品写真
（第 3 回アートリップで使用）

◎作品写真 6
「青の中の黄色い丸」
瑛九／ 1957-58（昭和 32-33）年
油彩、カンヴァス／ 116.5 x 80.0 cm
埼玉県立近代美術館（日本）
→ P25 の 2 番目の作品写真
（第 3 回アートリップで使用）

謝辞
画像提供でご協力いただいた
以下の美術館に感謝申し上げます。

埼玉県立近代美術館
公益財団法人　足立美術館
横浜美術館

アートリップ実施施設(開始順 敬称略)

社会福祉法人 神奈川県匡済会
養護老人ホーム 白寿荘

社会福祉法人 和みの会
特別養護老人ホーム 和みの園

社会福祉法人 泰明会
特別養護老人ホーム てるてる園

報告書企画・構成／黒田みのり
デザイン／横川知宏・玉井一平

発行
一般社団法人 Arts Alive
〒 170-0003 東京都豊島区駒込 2-5-1-903
TEL ／ 03-6721-1673
Mail ／ info@artsalivejp.org
Web ／ http://www.artsalivejp.org

発行日
2024 年 3 月 31 日

©2024 Arts Alive

横浜市

arts alive